

プログラム化に関する前回の宇宙科学・探査小委員会の議論のポイント（案）

○今回、改めてプログラム化について議論する背景

- 宇宙科学・探査領域における一定規模の予算確保・予算の平滑化のためには、今後政策的にどのような宇宙科学・探査を実施していく必要があるかを明確にすることが必要ではないか。
- 月・火星探査を目指す国際宇宙探査の動きが明確化してきている中、我が国が科学探査（特に惑星探査）でどう対応していくかを明確に示すことが重要ではないか。

○プログラム化の内容

- ボトムアップでプロジェクトを検討する場合も、プログラム化は可能。今回プログラム化として、当委員会で議論するのは、科学探査の中で、ボトムアップの議論だけでは必ずしもなじまない、国際的な視点や財政的な視点等を踏まえて我が国の科学探査の今後の進め方を議論する必要がある領域ではないか。
- 宇宙科学・探査の国際動向を踏まえ、我が国の宇宙科学の強化や宇宙探査における我が国の世界におけるプレゼンスの維持・向上という目標のために必要な探査やそのための世界をリードする技術の確保という観点から議論することが必要ではないか。

○プログラム化の対象

- 国際宇宙探査に対応したプログラム化ということであれば、プログラム化の対象は月・火星に限定した方がよいのではないか。
- 資源確保の観点から小天体探査も重要ではないか。
- 月における探査は必ずしも月の科学の研究のためだけに行うのではなく、木星や小天体に行くために月で実施するプロジェクトもあり、そういうプロジェクトもプログラム化に含めるべきではないか。
- 月、火星以外の天体もプログラム化の対象にする場合には、日本の太陽系科学探査を実施する考え方と実施方法を具体的に示す必要があるのではないか。

○プログラム化と工程表との関係

- プログラム化の対象プロジェクトを戦略中型や公募型小型に当てはめて実施すると、プログラム化の対象でないプロジェクトの数を縮小せざるを得なくなる。プログラム化の対象プロジェクトの財源は、従来の科学探査の予算の範囲にとどまらないことを明確にする必要があるのではないか。
- プログラム化の議論では、戦略中型（300 億円程度）、公募小型（150 億円程度）の金額の根拠についてコスト計算を行って見直すことも検討すべきではないか。
- プログラムそのものを工程表に反映させるのではなく、プログラム化の中で具体的にになったプロジェクトを工程表に反映させるという考え方ではないか。